

## エネルギー政策に関する意見箱

1. 氏名	荒井利治
2. 年齢	
3. 性別	
4. 連絡先	
5. 御意見及びその理由	<p>[意見]</p> <p>エネルギー政策の議論を聞いて思い出すのは昔よく聞いた「手に職を持つ」である。これから何で生計を立てるか迷っている若者に向かっての先輩の言葉だ。</p> <p>資源小国の日本のエネルギーを考えると、長期的視野に基づく低炭素社会実現のための諸施策は必然だが、現実を直視した場合長年の修行で身に着けた「原子力発電技術」の位置づけを明確に打ち出すことが必要であると思う。</p> <p>[理由]</p> <p>エネルギーに関する世界の現状は3E(Economy,Energy,Environment)のトリレンマにS(Safety)を加えた難問を抱えながら、持続可能な発展を模索している。</p> <p>地球の持つ自然の恵みである化石燃料は人類の指数関数的消費の増大でその限界が次第に明確になり、さらに地球温暖化問題から温室効果ガス削減が国際問題となっている中で、日本は長年省エネと技術力(ものづくり)で対応してきた。</p> <p>しかし前者は「絞った雑巾をさらに絞る」状況で苦闘中、後者は火力及び原子力発電技術に注力し、特に原子力はその故障率の低さから世界から注目される高い技術レベルになった。</p> <p>しかし2011年3月11日の東日本大震災による福島第一事故で状況は一変した。その後の7年間、各機関による事故調査および教訓の抽出と対策。原子力規制委員会の発足及び新規規制基準の策定とそれに基づく全国の原発の安全向上対策の実施が行われて現在に至っている。</p> <p>この間、諸外国から不思議がられたのは、すべての原発を停止してこれらの対策を実施したことである。当然審査員の体制が整わず、順番待ちの状態でも稼働できた原発は一部に限られ、各電力会社は代替の火力発電で補い前記温室効果ガスの削減目標は守れない状態である。</p> <p>確かに事故後の政府、東京電力の対応のまずさによる国民の信頼の喪失は深刻で、これがいわゆる原子力村と揶揄される原子力産業界の関係者が発言を封じた原因となった。</p> <p>しかし現実には、何故か殆ど報道されないが着々と安全対策は進められている。その実態を知った一般の人達で原発の再稼働に理解を示す人の数は増えてはいるが全体からみてあまりに少ない。</p> <p>長期的政策をしっかりと持ちそれに沿った行動をとることは絶対必要だが、新しい技術が根付くためには相応の時間が必要である。再生可能エネルギーがまさにそれで、各国の環境、条件が異なる中で皆懸命に開発中で、日本も遅れを取り戻すべく努力し</p>

ている。

ここで冒頭の「手に職を持つて」を思い出し、先ずは身につけている原子力技術がどのように改善されたかを世に示すため再稼働の必要性を真剣に国民に訴えて戴きたい。続いてその延長である原発新設をはっきりすることが後継者の人材育成のために必要と思う。一度途切れた技術の再建には莫大な代償がかかる。「継続は力なり。」

以上